

⑨ 有限会社ドンカメ

所在地 芳賀郡芳賀町

主な活動 生ごみを利用した堆肥づくり

■事業内容

もともと、米と梨の生産を行っていた代表が農事組合法人ドンカメを設立、生ごみを堆肥化し、農地に還元して土づくりをするシステムを構築、地域に提言することにより地域内資源循環づくりを目指している。

可燃ごみの40%を占める生ごみは、堆肥化すれば資源となる。このことを地域住民、商店街、工業団地の事業者にもまず理解してもらう《地域の理解、住民参加》。回収した資源(生ごみ)をプラントでなるべく自然な形で堆肥化する。堆肥をより活用するために、土づくりを農家とともに研究していく。そして、農業を継続可能な魅力ある農業経営に変えていく。更に、農産物を学校に納め、子供たちに生ごみ堆肥の講習をすることにより地域全体での資源循環の人切さが浸透している。



■創業のきっかけ

最初に取り組んだ時には、ダイオキシンも知られておらず、生ごみもさほど問題とされていなかったため、プラント設置に行政からの協力は得られなかった。そこで、身の丈にあったプラントを作ることから始まった。はじめは「廃棄物を農地に入れるなんて！」と言った農家の方も良質な堆肥に転換できると理解してくれるようになった。商店街では自分達が抱える厄介な生ごみが、分別することによって堆肥に変わることが分かったと分別の徹底が進んできた。地域住民の間にも生ごみは地域資源だという理解と認識が芽生え始めてきている。

■創業時の課題と成功のポイント

- ① 堆肥化システムは各地で行われているが、成功のポイントは堆肥の販売にある。そこで、堆肥投入による土づくりの技術、堆肥利用の栽培技術の構築が必要となるので、農家とともに研究会を開催している。
- ② 堆肥利用が進むと、農産物のブランド化、特産品化が可能になる。システム自体がブランドとなる。
- ③ コミュニティ・ビジネスはパートナーシップ形成で行われる。従って、お互いに欠かすことのできない関係(循環を切らさない関係)にあることが必要。